

4. トラブルとその対応事例

4 – 1. 発生が想定される軽微なトラブル事例

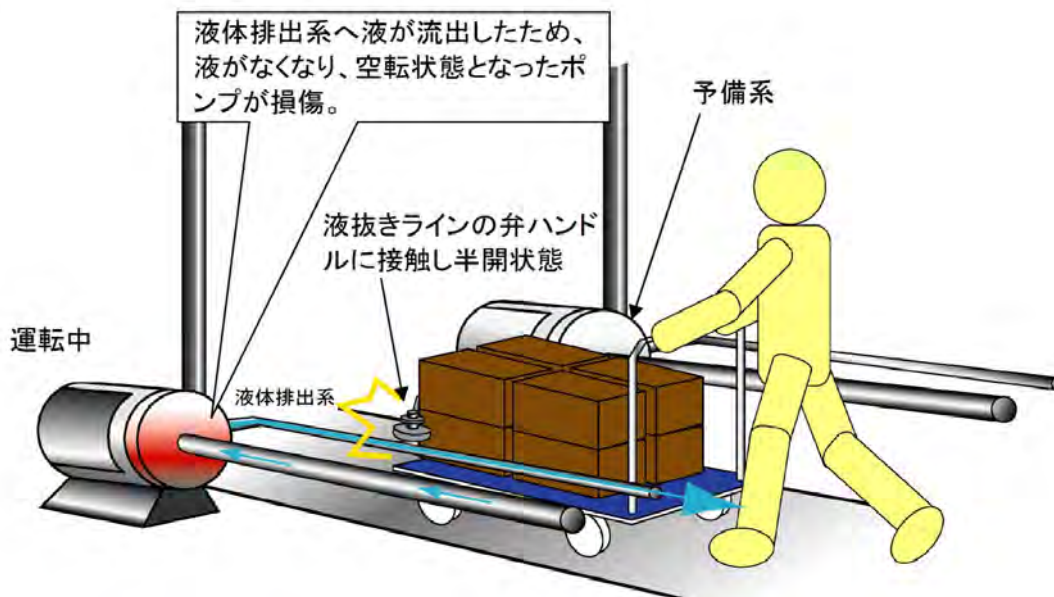
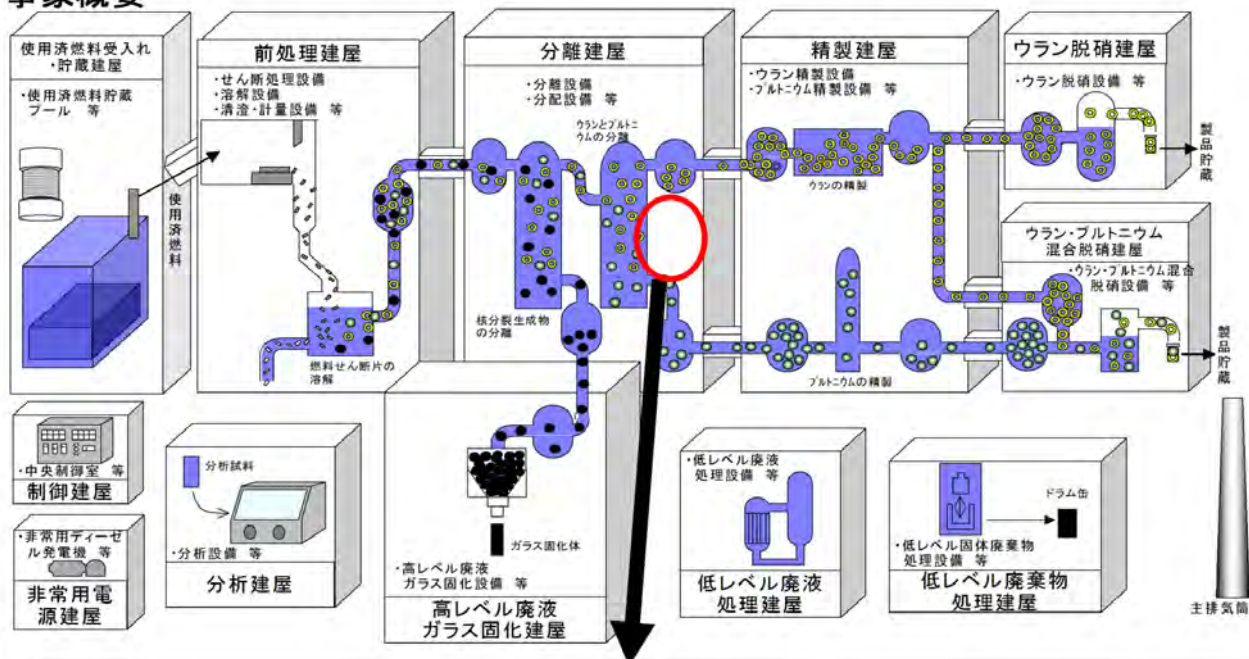
事象分類別 (g. 破損)

7-03. 空運転によるポンプの損傷																	
事象の概要																	
(1)発生場所：機器		分離建屋：アクティブ試薬設備のポンプ															
(2)設備の概要		ウランやプルトニウムの抽出を行う系統等に必要な薬品を供給するための設備。															
(3)発生の状況		アクティブ試薬設備の運転中															
(4)概要		作業員が気づかずにポンプの液抜きラインの弁ハンドルに接触したため、弁が閉状態から半開状態になり、液が流出したため、空運転状態となったポンプが損傷。 *他の建屋も含め同種の作業においても、同様な事象の発生が予想される。															
(5)原因		作業員の不注意による弁ハンドルとの接触。															
事象による影響																	
(1)工場外への影響		工場外への影響は生じない。 放射性物質を除去するフィルタ等を有する分離建屋の換気設備が稼働している室内での事象およびそれに伴う復旧作業であり、放射性物質放出等の工場外への影響は生じない。 なお、本事象は、液体排出系に液が流れたものであり、放射性物質の漏えいを伴うものではない。															
(2)安全性への影響		安全上の問題は生じない。 ポンプ損傷に伴い運転を停止するため、これ以上事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。															
(3)作業員への影響		作業員への影響は生じない。 ポンプの復旧作業にあたっては、定められた放射線管理計画書に従って作業を進めることにより、放射線による作業員への影響は生じない。															
(4)他工程への影響		他工程への影響は生じない。 別系統のポンプに切り替えて運転を続行するため、他工程への影響は生じない。															
対応の概要		1.ポンプの故障の原因が液抜きラインからの液の流出であることを確認する。 2.別系統のポンプを切り替えて、液移送を続行する。 3.定められた保守作業手順に従って、ポンプの保守を行う。															
公表区分		毎月集約して月 1 回公表（ホームページへ掲載）															
連絡区分*		<table><tr><th colspan="3">トラブル情報</th><th colspan="3">運転情報</th></tr><tr><td>A 情報</td><td>B 情報</td><td>C 情報</td><td>ごく軽度な機器故障</td><td>清掃・調整等で復旧可能な機器停止等</td><td>不適合等</td></tr></table>				トラブル情報			運転情報			A 情報	B 情報	C 情報	ごく軽度な機器故障	清掃・調整等で復旧可能な機器停止等	不適合等
トラブル情報			運転情報														
A 情報	B 情報	C 情報	ごく軽度な機器故障	清掃・調整等で復旧可能な機器停止等	不適合等												

*：『A情報』：安全協定報告事象等、または、それに準ずる事象、『B情報』：事象の進展または状況の変化によっては、安全協定報告対象になるおそれのある事象等、『C情報』：A、B情報に該当しない軽度な不具合、汚染等、特に連絡を要する事象

407

事象概要



復旧方法

定められた作業手順に従い当該箇所の保修により復旧

トラブル等に伴う設備への影響範囲

運転系統を切り替えて復旧

